実績報告書

届出者	住所	大阪市鶴見区今津北3丁目3番8号	氏名	株式会社　ワイヤーテクノ 代表取締役　橋本　忠

特定事業者の主たる業種	24金属製品製造業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	当社は、鶴見区に本社及び大阪工場第１製造部、西淀川区に第２製造部、石川県加賀市に加賀工場の３製造所体制で事業を営んでいる。 主に、線材を伸線加工して鉄線を販売するほか、亜鉛めっき線及び有刺鉄線などに加工して販売している。	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017 ）年度	前年度（　2018 ）年度
温室効果ガス総排出量	6,486 t-CO_2	6,509 t-CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	6,718 t-CO_2	6,762 t-CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	2.6 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	2.3 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 生産量 ）

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

原単位が目標年度に対して削減率2.6%、平準化補正ベースで2.3%と良化した。
基準年度がCGS導入で成果を上げた年度だったのでさらなる原単位向上は難しいと考えていたが、エネルギー使用率の高い針金製品の生産設備が年間を通じて稼働できたことで、生産量も大幅に増加(約3,000t：約3%up)し、さらなる改善が図れたものと考えている。

(2)推進体制

エネルギー管理統括者、月初に工場長以下製造部責任者全員で「全体会議」を開催し前月の生産状況、エネルギー使用量や原単位などを報告、原単位が悪化の場合は対策の検討・実施を行っています。
また生産工程を組む際、できるかぎり生産量を集約して集中稼動を行うなどの対策を行っています。

実績報告書

届出者	住所	大阪市西区江戸堀1-3-20	氏名	株式会社ワキタ 代表取締役社長　脇田貞二

特定事業者の主たる業種	70物品賃貸業	
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	建設業者を主たる貸出先とする、ダンプカー、クレーン付きトラックなどのレンタカーを事業とする	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	2,566　t -CO_2	3,697　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	2,566　t -CO_2	3,768　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択	レ	削減率（排出量ベース）	3.0 %	-44.1 %	%	%
		削減率（原単位ベース）	%	%	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	-46.9 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（　　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

レンタカーの低年式車種の廃棄と低燃費車種の導入へと入替を促進し１台あたりの走行距離も減少したが、総台数の増加や、基準年度に把握できていなかった事業所でのエネルギー使用量を2018年度から新たに計上した事等に伴い、排出量の削減には至らなかった。

(2)推進体制

車輌の入れ替えの際には、低燃費車の導入と低年式車の廃棄を効果的に実施できるよう、営業推進部が主となって会議で協議する。

実績報告書

届出者	住所	名古屋市千種区内山三丁目23番5号	氏名	ワシントンホテル株式会社 代表取締役　内田　和男

特定事業者の主たる業種	75宿泊業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	ホテル業・飲食店業・物品販売業・ホテル経営コンサルティング 大阪府内にホテル3店舗、レストラン1店舗を出店しております。	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2020　）年度
温室効果ガス総排出量	3,388　t -CO_2	3,360　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	3,662　t -CO_2	3,677　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択	レ	削減率（排出量ベース）	3.0 %	0.9 %	%	%
		削減率（原単位ベース）	%	%	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	-0.5 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（　　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

エネルギー使用関連設備の稼働方法（時間・温度管理・運転方法など）の実施を徹底した。

(2)推進体制

当ホテルチェーンでは、「地球のためにできること」を全社のスローガンとして、お客様のご理解とご協力をいただきながら、環境保全活動を実践し、省資源・省エネルギー、リサイクル、ごみの減量などをテーマとした環境保全活動に取り組んでおります。

実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区富久町13-19	氏名	わらべや日洋株式会社 代表取締役　　大友　啓行

特定事業者の主たる業種	9食料品製造業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	コンビニエンスストア向け、おにぎり・弁当・寿司、麺、チルド弁当、すしの製造を行っており、大阪府エリアで２工場運営しております。	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　　4　月　　1　日～　　2021　年　　3　月　　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	8,289　t -CO_2	9,876　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	8,774　t -CO_2	10,519　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	-18.7 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	-19.4 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　　（ 売上金額　　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

当社は弁当、おにぎり製造を中心に事業活動を行っていることから、本計画書では、売上金額を母数に排出原単位を設定し、目標年度である平成 32年度において、大阪府内において温室効果ガスを3%(原単位ベース)削減する目標を掲げるとともに、総排出量についても削減に努めていきます。

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

新商品販売に伴い、電気・蒸気（ガス）を使用する機器を増設した為急激に増加致しました。（当社は弁当、おにぎり製造を中心に事業活動を行っており、商品アイテムにより変動致します。）目標には程遠い数値となりましたが、機器を使用していないときのこまめな停止を心がけ、削減に取り組みを致します。

(2)推進体制

・温暖化対策に取り組むため、毎月の水光熱使用量を本社に報告し、本社技術部が主体となり堺工場だけではなく会社全体で現状改善などを検討しており、本体制を継続していきます。